



平成 29 年 11 月 10 日

各 位

会社名 株式会社 フレンドリー
代表者名 代表取締役社長 後藤 政利
(コード 8209 東証第 2 部)
問合せ先 経営管理部長 中尾 武史
(TEL 072-874-2747)

特別損失の発生及び第 2 四半期累計期間業績予想との差異に関するお知らせ

平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間におきまして、特別損失の計上をすることになりましたのでお知らせするとともに、平成 29 年 5 月 12 日に公表しました平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間(平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)の業績予想と実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 第 2 四半期累計期間に発生した主な特別損失の内容

不採算店舗に係る店舗閉鎖損失引当金繰入 10 百万円および減損損失 12 百万円等、合計 23 百万円の特別損失を計上いたしました。

2. 平成 30 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異(平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,864	66	69	43	2.87
実績値(B)	3,678	△12	△4	△41	△3.32
増減額(B-A)	△186	△78	△73	△84	—
増減率(%)	△4.8	—	—	—	—
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 3 月期第 2 四半期)	4,167	△65	△61	△116	△8.91

3. 差異の理由

(1) 第2四半期累計期間

第2四半期累計期間における売上高につきましては、1店舗の閉店と既存店売上高の計画未達を主な要因とし、前回予想を下回る結果となりました。各業態毎に対策を実施いたしましたが、消費者の節約志向は依然として強く、来店客数は計画比で100.8%となりましたが、お客様単価が94.4%となり売上高の計画を達成するに至りませんでした。主力業態「源ぺい」の既存店売上高が前年を8%程度下回るなど第2四半期累計期間の売上高は厳しい状況となりました。

営業利益につきましては、既存店売上高の減少影響に加え、広告宣伝費の増加9百万円、パート・アルバイト募集費の増加4百万円、及び修繕費の増加8百万円などにより前回予想を下回る結果となりました。

また、経常利益、四半期純利益につきましても、特別損失23百万円の計上等により、前回予想を下回る結果となりました。

以 上